

H-1:産学官連携

開催日時・会場 9月15日(水曜日) 10:40-12:10 2階 中会議室202

ニューノーマル社会に向けた組織的産学連携を本格化させる方策とは？
～レジリエントなセクター間連携強化への処方箋、産学連携とDX～

COVID-19蔓延に伴う社会情勢の変化に伴い、大学は教育・研究活動、特に学生の遠隔講義や課外活動の自粛、国際的な交流や社会経験の機会喪失など、経営の持続性の観点から、かつてない大きな影響を受けています。当然、産学連携も無縁ではなく、大きな環境変化に直面しています。本セッションでは、コロナ禍で、産学連携がどう変わったか、何がかわらないかの議論を通じて、「ニューノーマル社会に向けたレジリエントなセクター間連携強化への処方箋」について取り上げます。はじめにCOVID-19の蔓延に伴い、産学連携の環境がどのような影響を受け、どのような対処を迫られたか、各大学における経緯と現状を共有します。また、コロナ禍で急拡大したDXですが、産学連携や学際連携に携わるURA活動様式にどのような影響を及ぼし、今後どのように発展するかについての事例を紹介し、さらに、コロナ禍のピンチをチャンスに変える研究力強化への取り組みとして、オンライン会議ツールを活用した産学連携イベントの開催、新型コロナウイルス対応特別研究の事例紹介や人文社会科学研究者との学際領域の発掘、学際連携を通じた新たな研究の方向性など、いくつかの取組事例も交えて紹介し、研究力強化に向けた波及効果と、URA活動のDX化のメリットを議論します。

このように、本セッションでは、産学連携に資するDXに注目し、産学連携、中長期的な視点でDXを産学連携に活用する方策について議論します。これらのテーマについて各大学の事例紹介を交えつつ、レジリエントなセクター間連携強化に向けた今後の展望について意見交換と議論を行います。

オーガナイザー

樋口 隆信:電気通信大学・研究戦略推進室・
URA(特任准教授)



民間企業にて光学デバイスとシステムの研究開発およびマネジメント業務に長く従事した後、URAに転身。2019年電気通信大学URA(特任准教授)に着任。主に産学官連携支援、競争的資金獲得支援、研究力強化戦略の立案、等の業務を担当している。博士(工学)。

講演者

徳田 加奈:福井大学・産学官連携本部・URA



2014年福井大学URA着任。主担当としてプレアワードの他、研究プロジェクトマネジメント支援、産学連携・地域連携コーディネート、研究IR等の業務を担当している。RA協議会スキルプログラム専門委員として、リサーチ・アドミニストレーション人材向けの研修企画にも携わる。

米満 彩:九州工業大学・オープンイノベーション 推進機構・産学官連携本部・URA

NO
PHOTO
AVAILABLE

国際・研究推進担当URA。主に外部資金獲得支援、研究プロジェクト企画・運営支援、博士後期課程学生の研究活動支援を担当。博士（農学）。

根本靖久:東北大学・研究推進支援機構URAセンター ・副理事/首席URA/特任(運営)教授



東北大学医学研究科、学振特別研究員（DC, PD）等を経て、製薬企業での研究企画、技術の目利き、新規事業立上げ、ベンチャー経営等を経て、東北大学本部URAセンター立上げ、研究大学強化促進事業・COI東北拠点のプレアワード他企画運営等に関与。内閣府CSTⅠ第1期首席科学技術政策フェローを3年半兼務。現在は研究力強化や次期研究拠点企画に向けた学際融合研究支援、シーズ育成、起業育成支援、大型産連支援等の実務全般を手掛ける。